

大分県の農林水産業の現況について

(1)大分県の農業の現況について

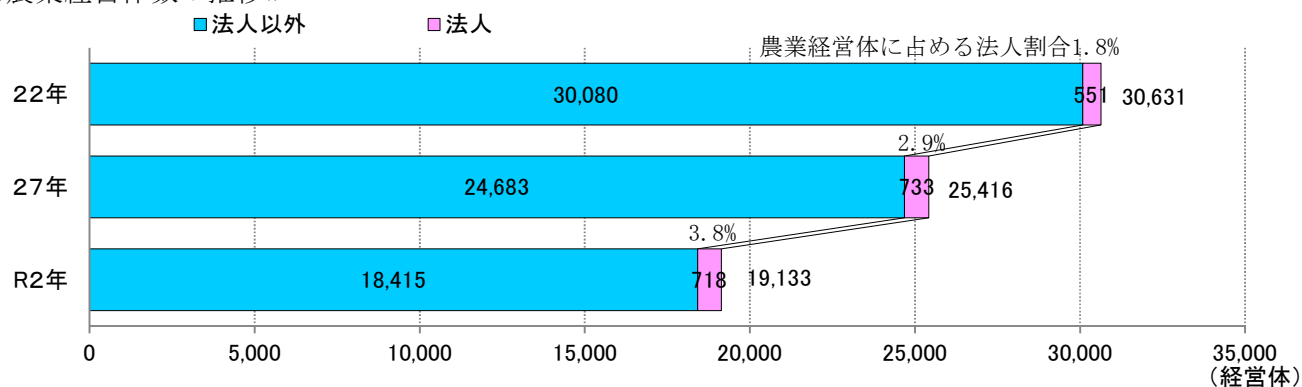
大分県は、標高0mから1000m近くまで耕地が分布し、耕地面積の約70%が中山間地域に位置する起伏の多い地勢にあり、こうした地域条件を活かし、園芸や畜産、米など多様な農業が営まれている。

① 農業経営体のすがた

ア 農業経営体数

直近の農林業センサスによると、令和2年の農業経営体は19,133経営体で全国26位である。また、法人は718経営体と減少しているが、農業経営体に占める法人割合は3.8%と増加している。(参考:令和5年度 認定農業者数3,733経営体、令和6年度 集落営農 549組織(うち212法人))

《農業経営体数の推移》



注)農業経営体:経営耕地面積30a又は各品目の経営規模が一定の基準以上の経営体(露地野菜作付面積15a以上など)又は農作業の受託を行なう者
資料:2020年農林業センサス(農林水産省)

イ 農業経営体の販売金額

販売金額が3,000万円未満の経営体が減少する一方で、3,000万円以上の経営体は平成27年に比べ42経営体増加した。

《販売金額別の農業経営体数》

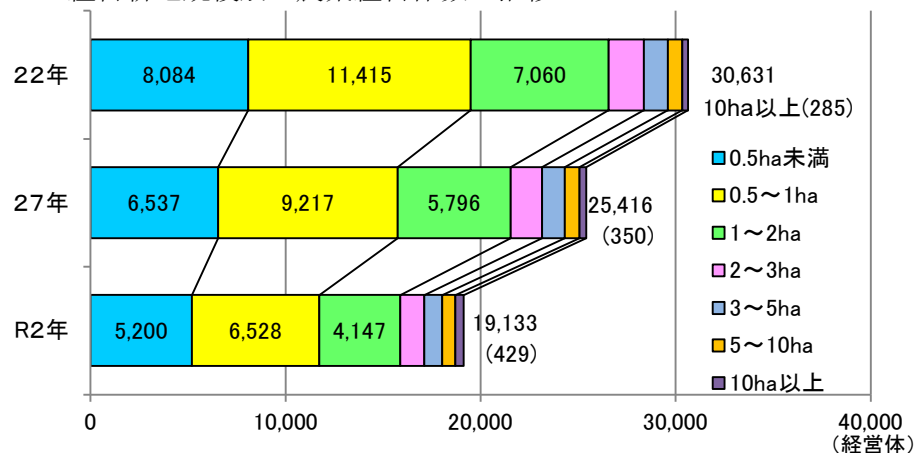
販売金額	単位:経営体		
	H27	R2	増減 (増減率)
100万円未満	17,818	12,472	▲5,346 (▲30.0%)
100~3,000万円未満	7,224	6,245	▲979 (▲13.6%)
3,000~5,000万円未満	158	186	28 (+17.7%)
5,000~1億円未満	117	129	12 (+10.3%)
1億円以上	99	101	2 (+2.0%)

資料:2020年農林業センサス(農林水産省)

ウ 経営耕地面積規模別農業経営体

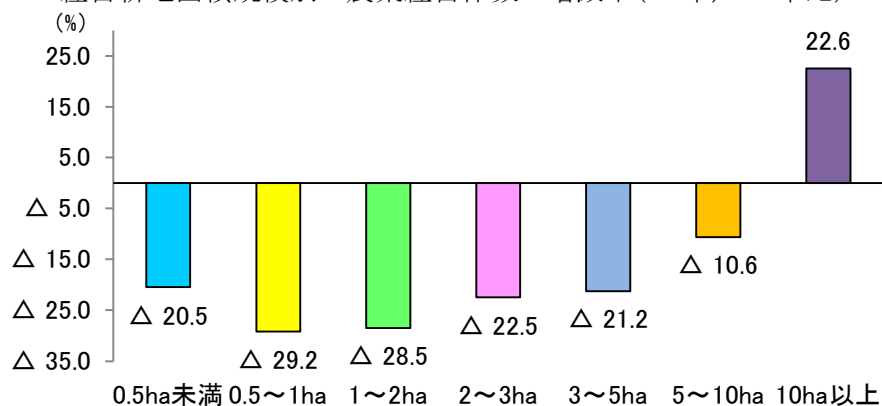
経営耕地面積規模別の農業経営体数は、0.5ha～2ha未満の経営体が大きく減少する一方で、10ha以上の経営体は増加している。

《経営耕地規模別の農業経営体数の推移》



資料:2020年農林業センサス(農林水産省)

《経営耕地面積規模別の農業経営体数の増減率(R2年/27年比)》

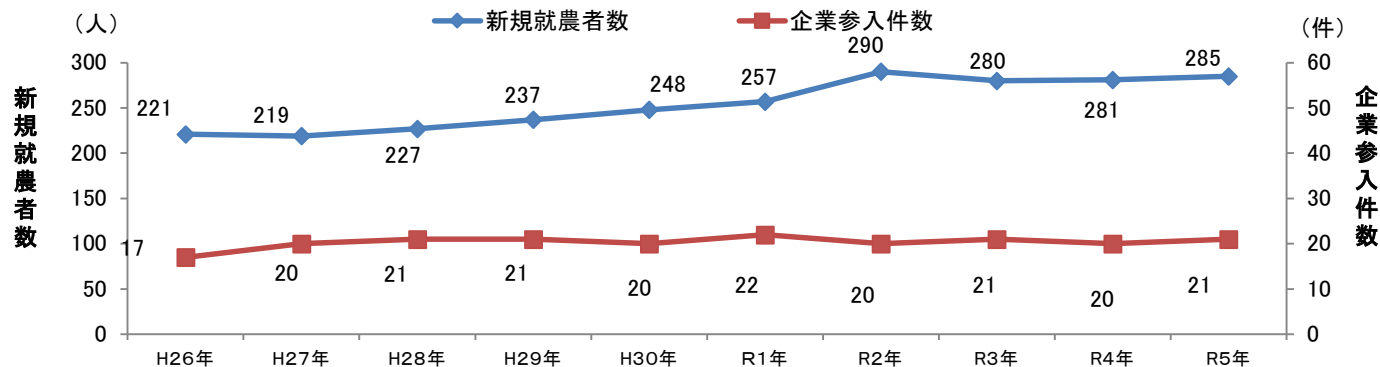


資料:2020年農林業センサス(農林水産省)

エ 新規就農者と企業参入

令和5年度の新規就農者数は285人で、このうち女性就農者数は82人と過去最多であった。企業参入件数は21件であった。

《新規就農者数と企業参入数の推移》



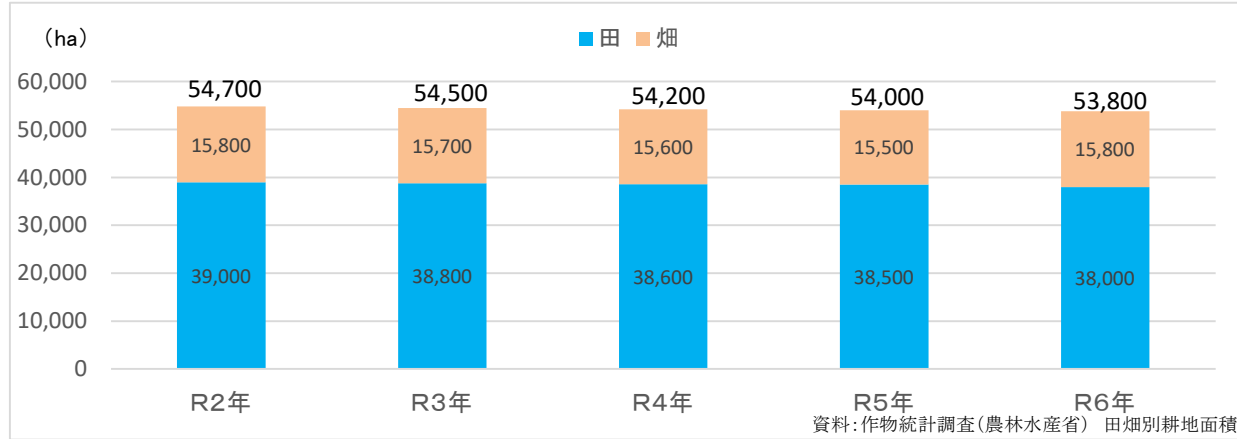
資料:大分県(新規就業・経営体支援課)調べ

② 農地の状況

ア 耕地面積

令和6年度の耕地面積は、田は38,000ha、畑は15,800haであり、耕地面積計は前年に比べ200ha減少している。

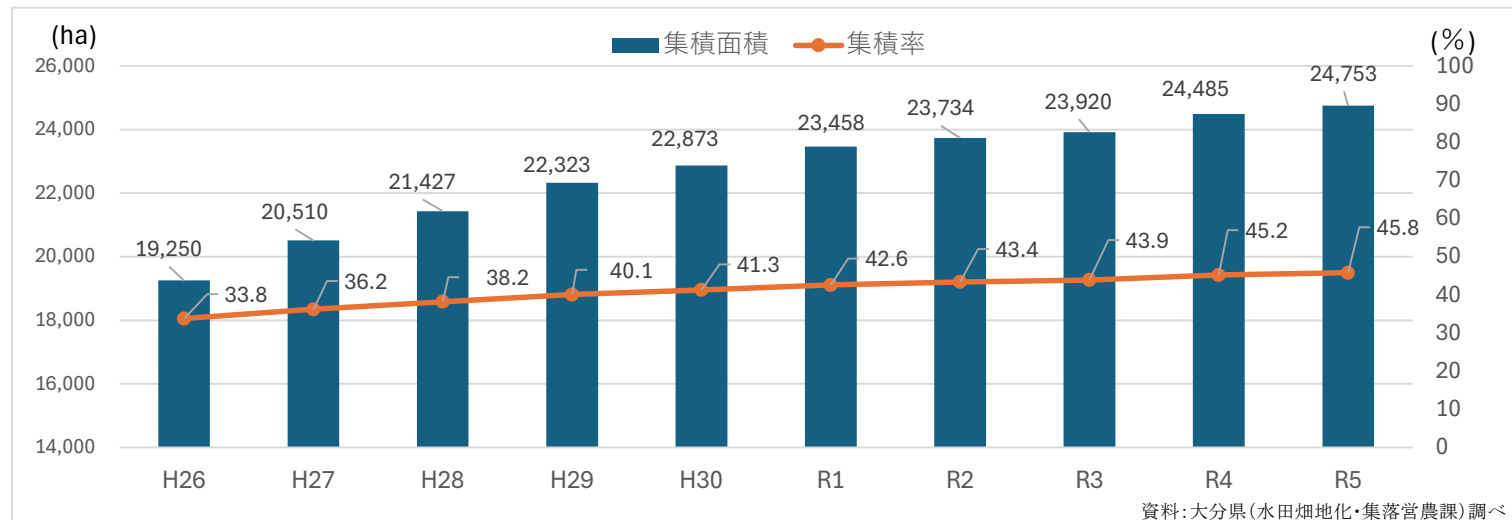
《田畑別耕地面積の推移》



イ 担い手への農地集積

令和5年度の担い手への農地集積面積は、24,753ha、農地集積率は前年に比べ0.6ポイント上昇し、45.8%であり、年々増加している。

《担い手への農地集積面積と集積率の推移》

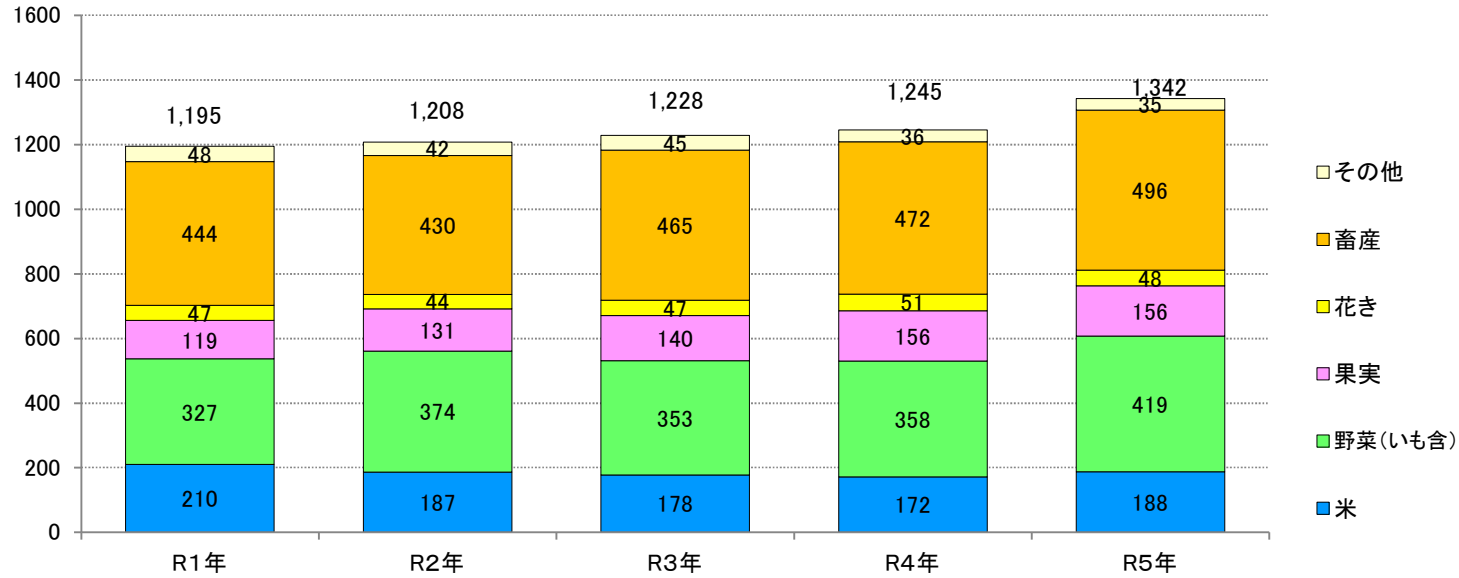


③ 農業産出額

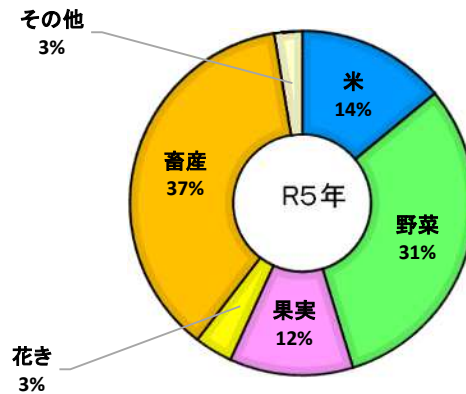
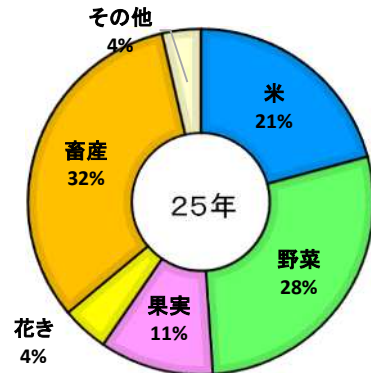
令和5年の農業産出額は、園芸において短期集中県域支援品目(4品目)の生産量の増加など、農業総合戦略会議の行動宣言に基づく取組の成果が出ていることや、畜産において肉用牛の増頭や豚・鶏の需要の高まりによる堅調な価格の推移から、産出額は4年連続の増加となり、約20年ぶりの水準となった。

《農業産出額の推移》

(億円)



《農業産出額における各品目が占める割合》



資料:生産農業所得統計(農林水産省)

資料:生産農業所得統計(農林水産省)